WITH 由良川

第2回

水災害からいのちを守る
～防災関係機関の連携を強化～

3回シリーズの連載

由良川とともにいきる

皆さんのまちを流れる「由良川」のことを知ってほしい。

連載「由良川とともにいきる」第2回は、近年に見られる記録的豪雨による災害を振り返り、「逃げ遅れゼロ」の実現に向けた防災関係機関の取組みを紹介します。

由良川における近年の洪水の発生頻度

由良川では近年、平成16年台風23号や平成25年台風18号、平成26年8月豪雨、平成30年7月豪雨などの洪水が発生しています。

由良川における年ごとの最高水位を過去から比較すると（下図右）、昭和40年代以前は昭和28年台風13号、昭和34年伊勢湾台風などの洪水がありましたが、昭和50年代以降は大きな洪水が見られませんでした。ところが、近年になって平成16年台風23号や平成25年台風18号など、大きな被害となる洪水が短期間に発生しています。

全国で頻発する記録的豪雨

平成27年9月の関東・東北豪雨では鬼怒川の堤防が決壊して周辺の家屋が多数流失し、茨城県常総市の約3分の1の面積が浸水する大きな被害が発生しました。

平成28年台風10号では観測史上初めて東北地方の太平洋側から台風が上陸し、岩手県の宮古市や久慈市では1時間に80㎜という猛烈な雨が降り多くの方が犠牲となりました。

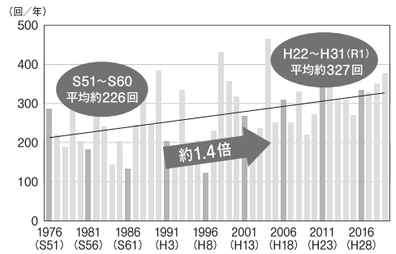
西日本を襲った平成30年7月豪雨では地域によって7月の月平均降水量の約2倍～4倍に達する雨が広い範囲で降り、多くの犠牲者が出ています。

昨年は関東・東北地方に複数の台風が襲来し、特に台風19号では東日本を中心に大雨となって総降水量が17観測所で500㎜を超えるなど、多くの河川で氾濫が相次いで発生しました。

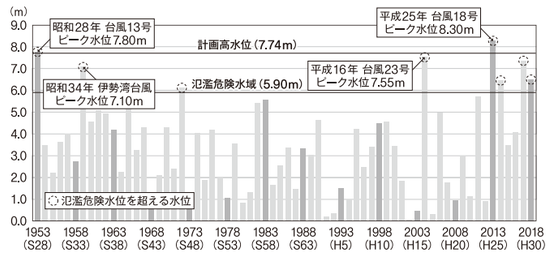
近年の雨の降り方

昭和51年以降の大雨の発生回数を見ると（下図左）、昭和60年までの10年間と平成22年以降の10年間を比較すると、約30年間で約1・4倍に増加しています。

環境省によれば、地球温暖化の影響で、雨の多い地域では水災害の危険性が増えることが懸念されており、政府の中央防災会議では、河川堤防など「施設の整備を着実に進める必要があるが、その能力には限界がある」と指摘しています。



△全国の1時間降水量50mm以上の年間発生回数の経年変化（気象庁アメダス1,300観測所あたり）



△福知山水位観測所の年ごとの最高水位

近年の水災害をふまえた由良川での取組み

近年の水災害を受け、国土交通省では「施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するもの」との認識に立ち、「水防災意識社会再構築ビジョン」を策定しました。これを受けて、由良川においても減災のための取組みを実施しています。そのうち、「命を守る」ためのソフト対策の一部を紹介します。

△第6回由良川減災対策協議会の開催風景

由良川減災対策協議会

平成28年5月に、福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市の沿川4市と京都府、京都地方気象台および福知山河川国道事務所が参画する「由良川減災対策協議会」を発足しました。

協議会では、減災のための目標を共有しながら、浸水被害を減らす取組み（ハード対策）や命を守るための取組み（ソフト対策）を定めるとともに、平成30年9月に「内水部会」を設置し、内水に関する課題についても関係機関が連携・協力して取り組んでいます。

防災パトロールを実施

毎年、初夏には消防団（水防団）や地域の方々を対象とした現場説明会として防災パトロールを開催しています。大雨や洪水で危険になる場所を確認し、水防資機材の状況などを共有しています。

△防災パトロールの様子

タイムラインの作成

洪水が発生したときに、国、府、市や住民がとるべき行動をすみやかに実施できるよう、事前に活動内容をタイムラインとして整理しています。また、防災に携わる機関で意見交換を行い、情報共有しています。

△由良川福知山タイムライン連絡会議の開催風景

地域防災訓練を開催

由良川沿いの自治体では、防災関係機関の相互連携を強固なものとし、住民の防災意識を向上させ、減災につなげることを目的として、地域防災訓練を毎年実施しています。

訓練には国土交通省や自衛隊、京都府、警察等も参加し、実演をとおして災害発生時の対応と連携を確認しています。

福知山河川国道事務所では、水中歩行体験装置により浸水した道路を歩くことの難しさを体験してもらい、逃げ遅れず早めの避難を心がけていただくよう、皆さんの防災意識の啓発や向上に努めています。

▷水中歩行体験

▷訓練の様子

「自らの命は自らが守る」意識をもった行動を

私たち行政は、防災対策の充実に努めていますが、地球温暖化に伴って雨の降り方や洪水の発生頻度が増加しており、行政主導の対策の限界が明らかとなってきました。また、避難勧告等が出たとしても、避難するかどうかは皆さんの判断になります。

「命を守る」ためには、平時より災害リスクや避難行動について把握し、自らの判断で適切に避難行動をとることが必要になっています。

■次回■最終回は、避難情報や避難行動に関する話題に着目します。

国土交通省　近畿地方整備局
福知山河川国道事務所
福知山市字堀小字今岡2459-14
TEL.0773-22-5104（代表）

『由良川とともにいきる』の詳しい内容はコチラ▶
https://www.kkr.mlit.go.jp/fukuchiyama/yuragawa/index.html

福知山市 水害に強い安心・安全なまちづくりシンポジウム
～局所化・集中化・激甚化する気象状況に向けて～
日時　令和2年3月1日（日）13:30～
会場　ハピネスふくちやま 4階ホール
https://www.city.fukuchiyama.lg.jp/site/bousai/19711.html

広告